

兄弟姉妹の皆様

私たちのローマのパパ様・故フランシスコ教皇様は今回のシノドスにおいて、「第2バチカン公会議を見直し、立ち戻り、生かしてほしい」とメッセージをくださいました。

2022年待降節から、ミサの式次第が新しくなりました。これも、その新しい流れの一つです。

今回はサンパウロ発行 第2バチカン公会議 公文書全集 南山大学監修「第3章 その他の秘跡、および準秘跡」を解説します。

私たちも、ミサや祈りに主体的に関われるように、一緒に学びましょう。

尚、わかりやすい表現を用いるため、多くの資料を参考にさせていただいておりますことをはじめにお伝えしておきます。

主任司祭 ペトルス・ウィリー・ソバ・ドイ O.C.D.

第3章 その他の秘跡、および準秘跡

典礼憲章

③⑥ ～第二バチカン公会議公文書より～

準秘跡の改訂：②⑨で解説しました【準秘跡】ですが、信者の意識や行動、日常生活の中で容易に参加出来ることなどの「主な基準」を考慮すること、また、現代になくてはならない点にも注意して改訂されなくてはなりません。

意図的に先に延ばされる祝別は、ごく僅かでなくてはなりません。

しかも、これは司教、あるいは裁地権者のためだけのものに限られます。

何らかの【準秘跡】は、その特別な状況においては、裁地権者の判断によって、ふさわしい資格を有する一般信徒が授けることができるよう配慮されなければなりません。

修道誓願：ローマ司教典礼書にある【おとめの奉献式】（女性がキリストの花嫁として、また教会の姿として、世俗の中で福音を生きるための教会の公式な承認と祝福を与えるもの）は改訂されなければなりません。

更に、一致と簡潔と崇高さを備えた修道誓願、および誓願更新の儀式を作成して、ミサ中に修道誓願を行う人々、あるいは誓願を更新する人々は特別の権利や権限を除いて、これを用いなければなりません。

修道誓願をミサ中に行うことは称賛すべきことです。

葬儀：葬儀は【キリスト信者の死の復活的性格】（永遠の命への出発）をより明らかに表現し、典礼色（白・赤・緑・黒・紫）も含めて、各地方の事情と伝統により良く適合したものでなくてはなりません。

幼児のための埋葬式を改訂し、そのための固有のミサを作成しなければなりません。

（つづく）